

記者発表資料

提供年月日：令和元年(2019年) 5月8日

部 局 名：農政水産部

所 属 名：農政課

係 名：企画・財産係

担 当 者 名：今井、湯浅

連絡先(内線)：3812

E-mail：ga00@pref.shiga.lg.jp



気候変動に対応する農業技術国際シンポジウム 「地球規模で考える気候変動と農山漁村」の開催について

気候変動の下での持続的な食料生産は、人類共通の課題です。世界の気候変動の専門家と、滋賀県の農業現場の専門家が会し、優良な取組事例等を分かりやすくご紹介します。

この機会に「私たちに何ができるのか」を一緒に考えてみませんか。

1 日時

令和元年(2019年) 5月13日(月曜日) 10:00~18:00 (9:30開場)

2 場所

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール(滋賀県大津市打出浜 15-1)

3 主催

農林水産省

4 定員

600名(先着順)

5 参加費・参加資格

無料；どなたでも御参加できます。

6 内容

別紙および農林水産省HPをご確認ください。

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/kikouhendou/symposium/main.html>

7 「滋賀の農業PRブース」の設置

滋賀県は、ホールホワイエ部分において、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い『環境こだわり農産物』や『世界農業遺産』認定に向けた取組を紹介する「滋賀の農業PRブース」を設置します。

農山漁村
×環境 
=SDGs

気候変動に対応する
農業技術国際シンポジウム
地球規模で考える
気候変動と農山漁村

*Agriculture is the solution!
for climate change*

2019年 **5月13日**(月)
14日(火)・15日(水)
会場：滋賀県立芸術劇場
びわ湖ホール

参加費
無料

日英
同時通訳

写真協力：(公社)びわ湖ピシターズビューロー、太田和枝(新潟県土越市/農業女子PJメンバー)、
ナイタイ高原牧場(北海道土幌町)、兵庫県立コナノトリの郷公園

主催

農林水産省

後援(アルファベット順)



Food and Agriculture
Organization of the
United Nations

国連食糧農業機関



フォーバー・マイル・イニシアティブ



滋賀県



THE WORLD BANK
世界銀行

農山漁村は、気候変動のソリューション

近年、干ばつや集中豪雨などの異常気象による災害が世界各地で発生し、食料生産にも甚大な被害を引き起こしていることが毎年のように報告されています。農業は同時に、温室効果ガスの排出源でもあります。

気候変動の下での持続的な食料生産は人類共通の課題です。農林水産業を続けていくためには、気候変動に適応し、生産量を増大し、かつ温室効果ガスを減らさなければなりません。

どうやって？

異常気象を肌で感じる農林漁業者だからこそできる取組があるのです。そのために、毎日食事をする私たちも一緒に考え、行動する必要があります。

5月(月)
13日

地球規模で考える気候変動と農山漁村

会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール 10:00-18:00 (9:30開場)

定員：600名【先着順】(参加費無料)

言語：日本語、英語(同時通訳)

※IPCC(気候変動に関する政府間パネル)：世界気象機関と国連環境計画の下で1988年に設立された政府間組織。気候変動に関する科学論文をとりまとめた報告書を作成することにより、世界の気候変動対策の進展に貢献。本年の5月8～12日、京都市で総会が開催される。

プログラム(予定)

基調講演：「2℃目標を達成するための農業の役割」

マルタ・アンドレア・アルファロ・バレンズエラ 氏

IPCC※温室効果ガスに関するインベントリータスクフォース農業担当レビューアー

課題設定：国連食糧農業機関、気候変動枠組条約、フィジー、スーダン

我が国の農林水産業と気候変動：農林水産省

優良事例の共有：ニュージーランド、滋賀県、持続可能な世界経済人会議、森林・水産分野ほか

全体総括：今後の取組方向「あなたも参加することで、農山漁村は気候変動のソリューション！」

5月(火)
14日

フィールドツアー(詳細はHPをご覧ください) 8:30-17:30(予定)

場所：滋賀県内 定員：100名程度(先着順)

魚のゆりかご水田、再エネ等を用いた資源循環型の地域づくりの現場等

【びわ湖ホールアクセス】

所在地：滋賀県大津市打出浜15-1
(JR大津駅北口から)中央通りを北へ850m、琵琶湖沿いで右折、なぎさ通りを750m(京阪石塚駅から)通りを北に3分

5月(水)
15日

シンポジウム分科会(詳細はHPをご覧ください) 9:30-17:00(予定)

農業者と科学者をつなぐワークショップ

テーマ：土壌への炭素貯留、健全な土壌、土壌肥沃度改善

会場：大津市内 定員：100名程度(先着順)

参加登録方法

農林水産省HPよりお申し込みください。
(QRコード、又は「農水省環境政策」で検索、「新着情報」内のリンクからどうぞ。)
インターネット環境がない場合はお電話(03-6744-2016)でもお申し込みできます。
<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/kikouhendou/symposium/main.html>

【お問い合わせ】

農林水産省大臣官房政策課環境政策室内
シンポジウム事務局
office-agsol@maff.go.jp



農林水産省

会見・報道・広報

政策情報

統計情報

申請・お問い合わせ

農林水産省について

[ホーム](#) > [基本政策](#) > [環境政策](#) > [気候変動と農業技術国際シンポジウム](#)

気候変動と農業技術国際シンポジウム「地球規模で考える気候変動と農山漁村」

地球規模で考える 気候変動と農山漁村



日時：2019年5月13日(月曜日)10時00分から18時00分

会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール中ホール

定員：600名程度(先着順)

言語：日本語、英語(同時通訳)

お申込は[こちら](#) から



農山漁村は、気候変動のソリューション (AGRICULTURE IS THE SOLUTION! for climate change)

農山漁村は、気候変動のソリューション！

近年、干ばつや集中豪雨などの異常気象による災害が世界各地で発生し、食料生産にも甚大な被害を引き起こしていることが毎年のように報告されています。

農業は同時に、温室効果ガスの排出源でもあります。

気候変動の下での持続的な食料生産は人類共通の課題です。

農林水産業を続けていくためには、気候変動に適応し、生産量を増大し、かつ温室効果ガスを減らさなければなりません。

どうやって？

異常気象を肌で感じる農林漁業者だからこそできる取組があるのです。

そのために、毎日食事をする私たちも一緒に考え、行動する必要があります。

シンポジウムでは、各国の最新事情、最新技術をもとに、各国の専門家を招いて議論します。

*「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)によると、世界の温室効果ガス排出量の4分の1が農林業に由来。

IPCCとは：世界気象機関と国連環境計画の下で1988年に設立された政府間組織。気候変動に関する科学論文をとりまとめた報告書を作成することにより、世界の気候変動対策の進展に貢献している。今年の5月8～12日、京都市で総会が開催される。



気候変動に対応する農業技術国際シンポジウム 地球規模で考える気候変動と農山漁村

*プログラムは変更される場合がありますので、ご了承ください。随時、ウェブサイト上で更新します。

*環境保護の観点から、シンポジウム当日、会場での講演資料の配布は行いません。

資料は事前にホームページ上に掲載いたしますので、必要な方はタブレット等の端末に保存の上ご持参いただく等、ペーパーレスへのご協力をお願いします。

*シンポジウム当日、会場のスクリーンには英語版の資料のみ投影されます。(英語版は[こちら](#))

May
13th



日 時：2019年5月13日(月曜日)10：00-18：00 9時30分開場

会 場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール(滋賀県大津市打出浜15-1)

言 語：日本語・英語(同時通訳)

司 会：みどりの女神 藤本 麗華さん

定 員：一般(海外、国内観客併せて600名程度を予定)

10時00分 開会

御挨拶：農林水産省

滋賀県知事 三日月大造氏

10時20分 基調講演

農業と気候変動に関する基本的事項を、科学的かつグローバルな視点から、分かりやすく伝えます。農林業分野が世界の総温室効果ガス排出量の約4分の1をしめる主要排出源であることを紹介し、後の議論の土台を築きます。

マルタ・アンドレア・アルファロ・バレンズエラ氏

IPCCインベントリータスクフォース農業担当レビューアー

「地球温暖化の世の中における農林業その他土地利用（AFOLU）の役割」

10時50分 日本の農林水産業と気候変動

国内の農林水産業と気候変動に関する基本事項や気候変動に対する緩和・適応策等を包括的に紹介します。

スピーカー：

久保牧衣子 農林水産省大臣官房政策課環境政策室長

「気候変動分野における農林水産業の現状と取組状況」

(11時00分 15分間休憩)

11時15分 セッション1：課題設定

食料と農業に関わる国連機関であるFAOによる進行の下、気候変動枠組条約に関する基本事項と農業分野の交渉の概況、気候変動に対して最も脆弱とされる島嶼国やアフリカの現状を伝えます。これらの国・地域では、気候変動に伴って増加しているとされる干ばつや洪水などの極端現象の影響が農業生産、ひいては人々の暮らしと命に深刻な影響を及ぼしています。

進行：

マーシャル・ベルノー氏

国連食糧農業機関(FAO)気候環境課自然資源オフィサー(緩和)

スピーカー：

1)ダーク・ネミツ氏

気候変動枠組条約事務局プログラムオフィサー

「気候変動枠組条約の下での農業」

2)テキニ・ナキダキダ氏

フィジー農業省シニア研究オフィサー(作物栽培)

「フィジーのコロナビア物語と気候変動」

3)ドニア・ハッサン氏

スーダン農業省 農業エンジニア

「スーダンの農業と気候変動」

(12時35分 昼食休憩)

14時00分 セッション2：グッドプラクティスの共有 パート1

農林水産業にとって重要な農地土壌、森林、藻場等を適切に管理することにより、気候変動緩和に貢献でき、緩和策は特別な取組でないことをご紹介します。パート1、パート2を通じて、様々な事例が世界各地及び地元滋賀県から紹介され、(1)気候変動への適応、(2)生産性の向上、(3)気候変動緩和のトリプルウィンを実現することは可能であることが明らかになり、シンポジウムの主題であるAgriculture is the solution!が共有されます。すなわち、農山漁村での生産活動を成長させつつ、温室効果ガスの排出を減らすことや炭素を吸収することは実現可能なのです。また、サプライチェーン全体を見渡した事例を紹介することで、農林水産分野が気候変動の緩和に貢献するためには、農林水産業者だけでなく全ての人の意識と行動が必要であることをお伝えします。

スピーカー：

1)ヴィクトリア・ハットン氏

ニュージーランド一次産業省シニア政策分析官

「挑戦に立ち向かう：ニュージーランドの農業者は、より少ない投入でより多く生産」

2)志和将一氏

滋賀県農業技術振興センター 茶業指導所

「茶農家の水質保全への取り組みから生まれた茶園からのN₂O排出削減技術」

3)ギアナ・ブラウン氏

フォー・バー・ミル・イニシアティブ執行事務局

「農業と気候変動緩和のための土壌への炭素貯留」

4)エセリ・ナンキャ氏

ウガンダ農畜水産省 国立農業研究機関、研究オフィサー/土壌科学者

「バイオ炭の農地施用でトリプルウィン」

(15時05分 20分休憩)

15時25分 セッション3：グッドプラクティスの共有 パート2

スピーカー：

5)堀正和氏

国立研究開発法人水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所生産環境部藻場生産グループ 主任研究員

「沿岸浅海域におけるブルーカーボン貯留量と貯留プロセス」

6)山田竜彦氏

森林総合研究所新素材研究拠点長

「森林由来の新素材が先導する持続的マテリアル利用システムの未来」

7)西村敏男氏

(農)新免営農組合元代表理事

「はなぶじ米栽培による温室効果ガスの削減」(PDF: 1,332KB)

8)マシュー・レディー氏

持続可能な世界経済人会議(WBCSD)気候スマート農業ディレクター

「サプライチェーンを通じた全体的なアプローチ」

(16時35分 10分休憩)

16時45分 全体総括

今後の取組方向「あなたも参加することで、農山漁村は気候変動のソリューション！」

進行役に、国際的な農業環境政策に造詣が深い荘林氏を迎え、各セッションを踏まえ、Agriculture is the solutionの実現に向けた各主体の行動について議論を行います。

進行:

荘林幹太郎氏

学習院女子大学副学長

パネリスト:

- 1)門永章宏氏 JA全農 耕種総合対策部GAP推進課課長
- 2)飯塚優子氏 住友林業株式会社 サステナビリティ推進室長
- 3)梶島裕美枝氏 イオン株式会社 環境・社会貢献部マネージャー
- 4)トビアス・バーデガー氏 世界銀行農業グローバルプラクティス農業エコノミスト
- 5)島田和彦 農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官

May
15th

シンポジウム分科会(農業者と研究者をつなぐワークショップ)

農業と気候変動のための土壌への炭素貯留、健全な土壌、土壌肥沃度改善をテーマにIPCC等の国際機関や国内外の専門家と農業者と共に議論します。

日時: 2019年5月15日(水曜日) 09時30分-17時00分

会場: 大津市内

定員: 150名程度(先着順)

言語: 日本語、英語(同時通訳、一部セッションは英語のみ)

参加費: 無料(昼食代別)

コンセプト:

「Agriculture is the solution!」という3日間を通じたキーメッセージの下、農業者が気候変動緩和に貢献する最も基本的な行為である「農地・草地土壌への炭素貯留」に着目し、科学者、農業者、両者をつなぐ政策立案者の相互理解を深めることを目的としています。そのことを通じ、農業者は、生命を支える「食」「栄養」「生きる喜び」を私たちと未来の子供たちに供する重要な役割に加えて、地球温暖化問題解決のカギを握るというメッセージを紡ぎます。

テーマ:

農業生産と気候変動のための農地・草地の土壌炭素貯留、健全な土壌、水管理を含む総合的な管理

内容:

- 1)科学を農業者に伝える。3日前まで京都議定書の街で議論されていたIPCCからの最新報告から、世界最長の土壌への長期運用試験まで、様々な物語。日本の土壌のCO2吸収「見える化」サイトのデモンストレーションも行う。
- 2)農業生産の基盤である土壌への投資は、経営面でも理にかなっているというビジネスの物語。
- 3)国内外の様々な農業者への物語。

主な対象:

国内外の専門家、一般傍聴(150名程度)

国内では、特に土づくりに関心が高い農業生産者、食・農業分野の投資に関心がある企業、研究者や大学関係者の方の参加をお待ちしています。

なお、本分科会は、フォー・パー・ミル・イニシアティブアジア地域会合と共同で開催します。

フォー・パー・ミル・イニシアティブ:

パリ協定が採択された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21、2015年12月)期間中、仏政府の主導で発足。「もしも全世界の土壌中に存在する炭素の量を毎年1000分の4ずつ増やすことができれば、大気CO2の増加量をゼロに抑えることができる」という計算に基づき、土壌炭素を増やす活動を推し進めようとする国際的な取組。2018年11月現在、日本を含む258の国や国際機関、NPOなどが登録。農業生産性の向上と気候変動緩和を両立しうる活動として、農地等における炭素貯留機能の重要性を認識し、各国の科学的知見や経験の共有を図ることが目的。

*プログラムは変更される可能性がありますので、ご了承ください。随時、ウェブサイト上で更新します。

*環境保護の観点から、分科会当日、会場での講演資料の配布は行いません。

資料は事前にホームページ上に掲載いたしますので、必要な方はタブレット等の端末に保存の上ご持参いただく等、ペーパーレスへのご協力をお願いします。

*分科会当日、会場のスクリーンには英語版の資料のみ投影されます。(英語版は[こちら](#))

09時30分 挨拶

島田和彦 農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官

09時35分 基調講演(同時通訳あり)

スピーカー:

1)ポール・ルー氏

フォー・パー・ミル・イニシアティブ 執行事務局長

「農業者による食料生産と気候の課題解決への貢献」

2)田辺清人氏

IPCCインベントリータスクフォース共同議長

「IPCC京都総会で採択された改良インベントリーガイドラインの要点〜農業分野を中心に」

3)ユージン・トン氏

FAO土地水課及びグローバルソイルパートナーシップ

「土壌有機炭素のポテンシャルを紐解く」

(10時45分 15分休憩)

11時00分 セッションA: 土壌への投資(セッションBと並行開催、同時通訳あり)

スピーカー:

1)ダルマ・ソモギ氏

WBCSD 気候スマート農業マネージャー

「健康土壌に投資するためのビジネスケース」

2) アンドレ・レウ氏

リジェネレーションインターナショナル 国際ディレクター

「水稲多収農法」

3) 新村浩隆氏

有限会社十勝しんむら牧場 代表取締役

「十勝しんむら牧場が大切にしていること」(PDF: 1.776KB)

11時00分 セッションB: 農業者のための政策と研究開発 (セッションAと並行開催、英語のみ)

スピーカー:

1) グスタボ・モザー氏

ブラジル農牧研究公社公共政策領域情報戦略局研究員

「ブラジルにおける気候変動ガバナンス」

2) 飛田哲氏

国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター 資源・環境管理プログラムディレクター

「植物の生物学的硝化抑制 (BNI) による気候変動緩和のポテンシャル」

3) ミラグロス・サンドバル氏

国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) 農業に関するコロニア共同作業共同議長

「ペルーにおける生産性向上を通じた炭素の土壌への還元」

(12時00分 昼食休憩)

13時00分 セッションC (同時通訳あり)

スピーカー:

1) 長野暁子

農林水産省大臣官房政策課環境政策室課長補佐

「日本の気候変動の緩和と持続可能な発展のための土壌炭素管理」

2) 白戸康人氏

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター 温暖化研究統括監

「意思決定支援Webツール「土壌のCO2吸収「見える化」サイト」の紹介とデモ」(PDF: 860KB)

3) ルドヴィック・ラボディエレ氏

フランス農業食料省 グローバリゼーション・食料安全保障ユニット長

「アグロエコロジーとフォー・パー・ミル フランスの経験」

(14時10分 15分休憩)

14時25分 セッションD: 農業者 (セッションEと並行開催、同時通訳あり)

スピーカー:

1) サンディーブ・スリニバス氏

バイオダイナミックアソシエーション (インド)

2) 園田耕一氏

株式会社近江園田ふあーむ 取締役会長

「命の源「土づくり・作物づくり」～食品ロス堆肥を活用した土作りによるフードリサイクルエコ農法～」

3) ピクトリアーノ・タグバ氏

フィリピン都市自治体有機農業連盟 事務局長

14時25分 セッションE: 農業者のための政策と研究開発 (セッションDと並行開催、英語のみ)

スピーカー:

1) ウルフギヤング・ゾンバック氏

ドイツ連邦農業食料省

2) シャオホー・チン氏

中国農業科学院農業環境及び可持続発展研究所

「農地土壌炭素貯留の増加: 中国の取組」

3) マーガレット・ユーヴァラナ氏

タイ農業省農業局技術企画課シニア政策企画専門職

「ASEANとタイでの気候スマート農業: 土壌と養分管理」

(15時25分 15分休憩)

15時40分 セッションF: 総合ディスカッション (同時通訳あり)

16時00分 特別講演

スピーカー:

アキム・ドーベルマン氏

ローザムステッド研究所長

「176年目の長期連用試験」

* ビデオシステムにより参加

英国ロンドン郊外に本部があるローザムステッド研究所は、

1843年から土壌の長期連用試験が実施されている農業環境、土壌肥科学のいわば「メッカ」です。

同研究所で開発された炭素モデルRothCは、世界的な土壌炭素モデルです。

農研機構農業環境変動研究センターの白戸氏は、RothCモデルを我が国の土壌・生産システムで精緻な計算ができるように改良しました。

ドーベルマン所長は、研究所の長い歴史で培われた「遺伝子から補充まで」の精神を引き継ぎながら、

最近では、ドローンを活用したスマート農業、民間活力の活用、国際交流も活発です。

16時40分 閉会

総括と挨拶

May
14th

フィールドツアー (参加登録は締め切りました)

魚のゆりかご水田などの環境との調和に配慮した営農活動や、再エネを用いた資源循環型の地域づくりの現場等を見学します。

日時: 2019年5月14日(火曜日)08時30分-17時30分

場所: 滋賀県内

定員: 100名程度 (先着順)

言語: 日本語、英語 (逐次通訳)

参加費：無料（昼食代別途徴収）

【参加登録】

以下のリンク先からご登録ください。

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/kankyo/sanka.html>

シンポジウムチラシ

「地球規模で考える 気候変動と農業」シンポジウムチラシ(PDF: 1262kb)

「地球規模で考える 気候変動と農業」シンポジウムチラシ (Acrobat 9.0以前版)(PDF: 544kb)

メールでのお問い合わせは、シンポジウム事務局まで office-agsol@maff.go.jp

写真協力：（公社）びわこビジターズビューロー

～農山漁村からはじまるSDGs～

農山漁村には、環境・経営の面で持続的な発展を可能とする再生可能エネルギーのポテンシャルやバイオマス、在来作物など様々な資源が存在します。加えて、農林漁業者の中には、気候変動の緩和や生物多様性の保全等の取組を日々の活動に組み込み、長年実践している方もいます。

これらの恩恵は、都市住民を含め国民全体が受け取っています。農林水産省としては、環境・技術分野における貢献が期待されること、これらのアクションプラン等を踏まえ、農林水産・食品分野におけるSDGsについて環境・技術分野を中心に幅広い有識者からお話を伺い、そこから得た知見を元に、Webサイトを開設しました。以下のリンクからご覧ください。

農林水産業 × 環境・技術 × SDGs Webサイトを開設しました！

お問合せ先

大臣官房政策課環境政策室

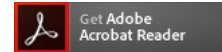
担当者：長野、古田、橘

代表：03-3502-8111（内線3296）

ダイヤルイン：03-3502-8056

FAX番号：03-3591-6640

PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。
Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。



公式SNS



イベント情報

関連リンク集

農林水産省
トップページへ

農林水産省

住所：〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話：03-3502-8111（代表）

法人番号：5000012080001

ご意見・お問い合わせ

アクセス・地図

[サイトマップ](#) [プライバシーポリシー](#) [リンクについて・著作権](#) [免責事項](#)

Copyright : Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries